



月刊部員新聞

2013年8月
第79号

編集・発行 Unit

教員免許状更新講習

現在教員免許を保有している人は10年に1度更新講習を受けることになっていきます。この更新講習は平成21年度から始まり、今年で4回目ということになります。

受講する前は正直、面倒という思いもありましたが、受講してみてもその思いは間違いであったというところがわかりました。

受講者

受講者は30代、40代、50代と年代で3つに分かれていて、基本的には現職の教員はもちろんです。過去に教員だった人やこれから教員になるうとしていいる人などの人が対象になります。

講義内容

実際の講習は、基礎的な部分が12時間、専門的な分野が18時間、合計30時間の講習です。

延べ5日間にわたるものでした。

基本的に1コマ90分でしたが、座学だけではなく、実技も含めたすべての時間で試験がありました。実技も含めてほとんどが論述記述でしたので、講義でよりも、試験で疲れたという感じでした。

それでも実技の時間は座学と比べると楽しく講義を受けることができました。

講義内容は学習障害に関する内容や教育心理、中高生における障害の話まで非常に多岐にわたり、どの講義も非常に興味を持って聴くことができました。

ただ講義内容に興味を持っただけでは、この授業を学生が聞くのはつらいだろうなあと思いつつながら聴いていた講義も正直いくつもありました。逆にこの講師の授業であれば昼

食後の授業でも寝ることはないだろうなと思うものもありました。

実技は選択

実技は3*2コマあり、私はトレーニング、身体づくり、器械体操を選択しました。

トレーニングではハイクリンで行ったのですが、部活動ではほとんど指導されていらないのだらうなと推測できると、初めて行った感じの方が良かったです。

私たちフィジカルコーチの世界ではハイクリンとはトリプルエクステンションを踏まえた動きをトレーニングするパワー系の代表的な種目であり、基本的なものとして認識されています。

ところがやはり部活動ではその必要性がきちんと認識されておらず、指導もされていません。

競技力を向上させるために何が必要なのかを、部活動の指導者にはもう一度考えてもらいたいです。

更新講習の受講対象者について

- (1) 現職教員
- (2) 実習助手、寄宿舎指導員、学校栄養職員、養護職員
- (3) 教員採用内定者
- (4) 教育委員会や学校法人などが作成した臨時任用（または非常勤）教員リストに掲載されている者
- (5) 過去に教員として勤務した経験のある者
- (6) 認定こども園で勤務する保育士
- (7) 認可保育所で勤務する保育士
- (8) 幼稚園を設置している者が設置する認可外保育施設で勤務する保育士など

Unit 代表 澤野 博 (さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部員となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のフィジカルコーチ。NSCA CSCS、JADA DCOなども保有。
ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。
0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com

トレーニング関係の資格のほとんどでCECと呼ばれる教育単位制度を導入している、資格更新のための必要最低単位というものが設定されています。教員であれ、指導者であれ、他人に何かを指導する職業の間は、常に学び続ける姿勢を忘れてはいけない。今回の講習を受け、最新のものが必ずしも良いわけではありませんが、学び続ける重要性を再認識しました。